SUISUI Sunny

20インチスモール

電動アシスト自転車BM-TZ500

取 扱 説 明 書

最終ページ保証書付
Ｖｅｒ．1.0.1

品質保証書及び、自転車点検チェックリスト付ですので、大切に保管して下さい。

自転車を安全で快適にご使用いただくため必ずお読みください。

お買い上げありがとうございます。お求め頂きました自転車の性能を十分に引き出し
いつまでも安全にお乗りいただくために、正しいご理解で使用していただくことが必要です。
ご使用方法を誤りますと大きな事故につながりかねません。お乗りになる前にこの
取扱説明書を良くお読みいただき使用いただくようお願いいたします。
本自転車は日常生活用として設計されています、業務用としてはお使いにならないでください。

取扱説明書をお読みいただく前に下記項目をご覧ください。

- お買い上げ店にてご確認のうえ、必ず防犯登録を行ってください。
- 自治体によっては、保険の加入が義務づけられています。自治体の指示に従ってください。
- 購入後の初期点検および定期点検は必ず実施してください。
- お子様がご使用の場合は、保護者の方が必ずよく読んで正しい乗り方と注意事項
  などについて、わかりやすくご指導ください。
- 取扱説明書は読んだあとは大切に保管して、必要に応じてご活用してください。

警告表示について

警告表示は危険の程度に応じて次の区分で表示していますので
特に注意してください。

警告	取扱いを誤った時に使用者が、死亡もしくは骨折などの重傷を負う可能性が想定されるもの。
注意	取扱いを誤った時に使用者が、障害を負う危険が想定されるとき及び、物的障害のみの発生が想定されるもの。
禁止	危険の程度と関係なく、道路交通法で禁止されている行為（荷台等に二人乗りをする等）又は、当自転車でしてはいけない行為。
強制	使用者に必ず実行していただきたいこと。

●品質・性能の向上及びその他の事情により、予告なく仕様変更をおこなう場合があります。

●本書のイラスト、写真は、イメージです。
お買上げいただいた自転車とは、形状、デザインが異なる場合があります。

目　次

安全上のご注意 ・・・・・・・P1
・自転車 ・・・・・・・P3
・バッテリー、充電器 ・・・・・・・P5
電動アシスト自転車について ・・・・・・・P7
各部のなまえ ・・・・・・・P8
お乗りになるまえに ・・・・・・・P9
・組立て手順 ・・・・・・・P9
・乗車前の調整・点検 ・・・・・・・P10
・交通ルールを守りましょう ・・・・・・・P13
乗りかた ・・・・・・・P14
・発進のしかた ・・・・・・・P14
・アシストモードについて ・・・・・・・P15
・前照灯(LEDライト)について ・・・・・・・P15
停止、駐輪、施錠のしかた ・・・・・・・P16
充電のしかた ・・・・・・・P16
バッテリーについて ・・・・・・・P18
お手入れと保管 ・・・・・・・P19
故障かな？と思ったら ・・・・・・・P20
・自転車 ・・・・・・・P20
・充電器、バッテリー ・・・・・・・P21
防犯登録について ・・・・・・・P22
点検・整備チェックリスト ・・・・・・・P23
仕様 ・・・・・・・P24

品質保証規定/保証書 ・・・・・・・末巻

安全上のご注意

＊ご使用の前に必ず、この「安全上のご注意」を良くお読みいただき正しくお使い下さい。
＊お子様がご使用の場合は、保護者の方がこの「安全上のご注意」を必ずお読みいただき正しい乗り方をご指導下さい。
＊ここに示した注意事項等は、製品を安全に正しくお使いいただく為に、誤った扱いをすると生じることが想定される事を危険・警告・注意の３種類に区分した、安全に関する重要な内容ですので必ず守ってください。

⚠ 危険	「死亡」や「重傷」を負うおそれが大きい内容です。
⚠ 警告	「死亡」や「重傷」を負うおそれがある内容です。
⚠ 注意	「傷害」を負うことや「物的損害」が発生するおそれがある内容です。

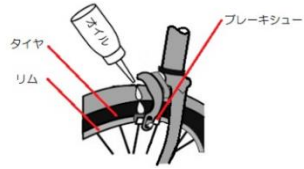
禁止 分解禁止	してはいけない内容です。
強制	実行しなければならない内容です。
⚠	気をつけていただく内容です。

⚠【警　　告】	
⚠	改造や分解はしない。 部品の破損などによって、外れて転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
⚠	調整後の締め付け（車輪・サドル・ハンドル・バッテリーなど）を確認せずに乗らない。 車輪やサドル、ハンドルが外れて転倒によるけがのおそれがあります。
⚠	サドルやハンドルの引き上げ限界点標識が見えるまで上げない。 サドルやハンドルの折れや抜けによる、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
⚠	異常がある場合は乗らない。 異常があるまま走行すると事故や転倒によるけがのおそれがあります。
⚠	飲酒運転は禁止。 ヘッドフォンを使用しながら、傘を差しながら、携帯電話を使用しながらの運転はしない。かぜ薬などを服用してるとき、また体調が悪いときは乗らない。 転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
⚠	荷物をハンドルや手にかけたり、ペットをつないで乗らない。 荷物が車輪に巻き込まれたり、バランスを崩して転倒によるけがのおそれがあります。

⚠ 【警　　告】	
禁止	かかとの高い靴や、滑りやすい靴を履いて乗らない。 足がペダルから外れて、転倒によるけがのおそれがあります。
禁止	飲酒運転は禁止。 二人乗りは禁止。 ＊6歳未満の子供を幼児用座席に一人乗せる場合や幼児二人同乗用自転車を除く
禁止	雨・風・雪のひどいときは、乗らない。 バランスをくずし、転倒によるけがのおそれがあります。
禁止	次の様な運転はしない。 ヘッドフォンを使用しながらの運転・傘を差しながらの運転・携帯電話を操作しての運転。
禁止	走行中に手や足で前照灯の角度調整はしない。 ＊停止した状態で、前照灯の角度を調整してください。 前方不注意となり、転倒や衝突・手足が車輪に巻き込まれけがをするおそれがあります。
禁止	凹凸の激しいところを走らない。 ＊歩道の段差や溝など フレームや車輪の損傷や転倒によるけがのおそれがあります。降りて押して歩いてください。
禁止	合図以外は、ハンドルから手をはなさない。 バランスがとりにくく、転倒によるけがのおそれがあります。
禁止	カーブで曲がる側のペダルをさげない。 ペダルが地面と接触し、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
禁止	巻き込みやすいものを車輪やギアに近接させてのらない。 ＊長いスカートやマフラー、傘など 車輪やギアに巻き込まれて、転倒によるけがのおそれがあります。
禁止	傘や釣りざお、ステッキ等車体に差し込んだり下げたりしてのらない。 車輪に巻き込んだり、人や物にぶつけて事故や転倒によるけがのおそれがあります。
禁止	スポークの間にボール（固形物）などを入れて走らない。 車輪に巻き込まれて、転倒によるけがのおそれがあります。
禁止	走行以外には使わない。 踏み台代わりなどに使用すると、転倒によるけがのおそれがあります。
強制	自転車用ヘルメットを着用。 頭部の保護のために有効です。 幼児を同乗させる場合も必ず自転車用ヘルメットを装着させてください。

安全上のご注意（自転車）

	けんけん乗りしない。 転倒や接触事故によるケガの恐れがあります。
	前ブレーキだけのブレーキ操作はしない。 転倒によるケガの恐れがあります。
	組立て前の自転車や、未調整の自転車に乗らない。 通常の運転が出来ず転倒や衝突によるケガの恐れがあります。
	前後ブレーキ動作やハンドル・車輪の固定、タイヤ空気圧などの乗車前点検をおこなう。 異常があれば、転倒によるケガの恐れがあります。空気圧が適正でないとパンクや リム破損による転倒でケガの恐れがあります。
	回転部分に手や足、物を近づけない。 巻き込みや転倒によるケガの恐れがあります。
	巻き込まれやすい服装では乗らない。 スラックス、スカートの裾、マフラーなどは車輪やギアに巻き込まれ、転倒によるケガの 恐れがあります。
	ご使用開始から２ヵ月以内に販売店で、自転車安全整備士や自転車技師またはそれと 同等の技能を有する者により点検を受ける。 ご使用開始から２ヵ月位で各部のネジがゆるむことがあります。
	スピードを出しているときは急ハンドルの操作をしない。 急カーブでスピードを出し過ぎない。 スリップや転倒によるケガの恐れがあります。
	夜の無灯火での運転は交通違反です。 視界が悪い時（夜間、トンネル内、霧など）は無灯火で走らない。 見通しが悪くなり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。 自動車からも見えにくくなり危険です。 前照灯が故障していたり、リフレクターが破損あるいは汚れている場合は自転車を押して 歩いてください。
	自転車を走行以外の目的で使用しない。 腰掛けや踏み台など目的外のことで使わないでください。 転倒によるケガの恐れがあります。 スタンドを立てたままでペダルを強く踏み込まないでください。 駆動補助機付自転車の特性で発進しようとする場合があります。

禁止	**ブレーキシュー、タイヤ、リムには注油しないこと。** ブレーキが効かなくなり、衝突によるケガの恐れがあります。 
禁止	**走行中は電源スイッチ、アシストモードスイッチ、ライトスイッチの操作をしない。** 前方不注意となり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。 必ず停車した状態で操作してください。
水ぬれ禁止	**水洗いはしない。** 浸水により電気部品や配線の絶縁が劣化して、漏電など故障の原因になります。
強制	**走行中に異音が発生したり、自転車が転倒したり、水に浸かってしまったなどで異常が発生した場合は直ちに使用を中止し、保証書記載のサポートセンターまでご連絡ください。** そのまま使用を続けると事故や故障の原因になります。
禁止	**走行中に残量表示ランプ等を注視しない。** 表示に気を取られ、前方不注意となり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。
強制	**１年ごとにお近くの自転車販売店で自転車安全整備士、自転車技師またはそれと同等の技能を有する者 により点検を受けてください。** **また、部品の交換は下記の目安で行ってください。** ブレーキが効かなくなったり、スリップのため転倒の恐れがあります。 ●ブレーキワイヤは、異常が無くても２年に１回は、交換してください。 ●ブレーキレバーの遊びが大きいものは直ぐに販売店で調整してください。 ブレーキが効かない恐れがあります。 ●ブレーキゴムは、溝の残りが1mmになる前に交換してください。 ●チェーンのたるみの大きいものは直ぐに販売店で調整してください。 走行時にチェーンが外れる恐れがあり危険です。 ●タイヤは、接地面（トレッド）の溝が無くなる前に交換して下さい。

安全上のご注意（バッテリー、充電器）

⚠【危　　険】	
禁止	バッテリーを火中に入れたり、過熱をしない。 液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
禁止	バッテリーに衝撃を与えたり、分解や改造はしない。 ケースの破損、感電、液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
禁止	端子（+　−）に金属などを接触させない。 感電や液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
禁止	アシスト自転車専用バッテリーですので、他の機種・機器・用途には使用しない。 液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
禁止	火のそばなど高温の場所での充電・使用・放置はしない。 自転車本体からバッテリーを外して充電して下さい。 液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
禁止	充電器のケース・コードやプラグが傷んでいたり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。 感電、発火、異常発熱のおそれがあります。
強制	バッテリーを充電する場合は専用の充電器を使用する。 他の充電器を使用すると、発火・異常発熱・故障・破裂のおそれがあります。
強制	バッテリー液が目に入った時は、こすらずきれいな水で十分洗い流しただちに医師の治療を受ける。 失明のおそれがあります。

⚠【警　　告】	
禁止	充電器の分解・改造や端子間のショートはしない。 感電、発火、異常発熱のおそれがあります。
禁止	傷ついたまま使用しない。 ケースなどを破損したまま使用すると液漏れのおそれがあり、目に入った場合失明するおそれがあります。異常発熱や破裂のおそれもあります。
水ぬれ禁止	衝撃を与えたり、落下や水漏れ、高湿度な場所での使用はしない。 発熱、発火、感電のおそれがあります。

【警　　告】	
禁止	幼児、ペットなどが触れる可能性がある場所には放置しない。 感電、ケガ、故障、火災の原因になります。
禁止	充電器は専用バッテリー以外使用しない。 バッテリーの液漏れ、発熱による火災のおそれがあります。
禁止	バッテリーの液が衣類や皮膚に付着したときは、ただちにきれいな水で洗いながす。 皮膚に傷害を及ぼすおそれがあります。
禁止	充電中は上に物を置かない。 内部が発熱して、火災のおそれがあります。
禁止	充電器本体に、電源コードを巻きつけて保管しない。 電源コードなどが断線し、傷んだまま使用すると感電、故障、火災の原因になります。
ぬれ手禁止	電源プラグをぬれた手で抜き差ししない。 感電するおそれがあります。
強制	電源プラグは根元まで差し込む。 不完全な差し込みだと、感電や発熱による火災の原因となります。
強制	電源プラグや充電端子についたほこりなどは取り除き、油などは付着しないようにする。 感電や発火のおそれがあります。

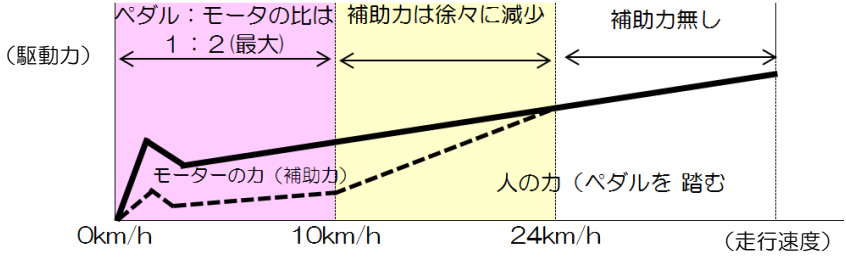
【注　　意】	
強制	充電中は、同じ箇所を長時間皮膚に触れさせない。 温度が40℃～60℃になる場合があり、低温やけどのおそれがあります。

電動アシスト自転車について

電動アシスト自転車は普通の自転車と異なり、ペダルアシスト付きの自転車です。
電動アシスト自転車についての正しい知識を身につけましょう。

～ペダルアシストとは～

人がペダルを踏む力に応じて、モーターの補助力を加えて走行を助ける機能です。



下記のようなときはペダルアシストが働きません。

●速度が24km/h以上のとき
※速度が24km/h以下でも平地などペダルの負荷が少ない道路では、ペダルアシストが働かない場合があります。また、速度が24kmに近づくと補助力は徐々に減少していきます。
●走行中にブレーキレバーを握ると電源が切れ、ペダルアシストは働きません。
●ペダルの回転を止めているとき。
●バッテリー残量が少なくなったとき。
※バッテリー残量が少なくなるとペダルアシストは働きませんが、普通の自転車として走行できます。

～走行できる距離の目安～

１回の充電で走行できる距離は

●BM-TZ500（20インチ） 最大約30km（平坦な道での走行）
条件：バッテリー新品、温度20℃、無風状態、前照灯消灯、車載質量60kg（乗員および荷物を合計した質量）、アシストモード エコ、標準空気圧、平坦な道路。

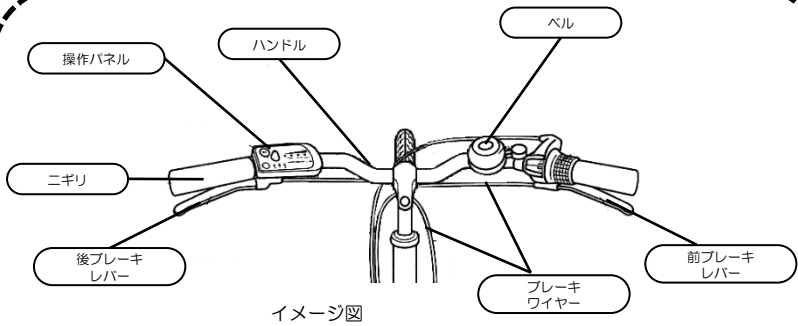
※走りかた、道路状況、気候などにより１回の充電で走行できる距離は異なります。
特に整備状態、積載質量の増加や登り坂が多い場合、ペダルを強く踏み込む走行が多いなど、ペダルアシストの走行できる距離が短くなります。
※バッテリーの特性上、冬季は走行できる距離が短くなりアシスト力が低下することがあります。
※バッテリーの特性上、充電回数の増加に従い、１回の充電で走行できる距離が短くなります。
走行距離はあくまでも目安で、１回の充電による走行距離を保証するものではありません。

付属品の確認

自転車本体のほかに下記のものがすべて含まれることをご確認ください。
・バッテリー・バッテリー充電器
・取扱説明書（保証書付）
・盗難補償登録はがき
・簡易工具（簡易スパナ、六角レンチ）

各部のなまえ

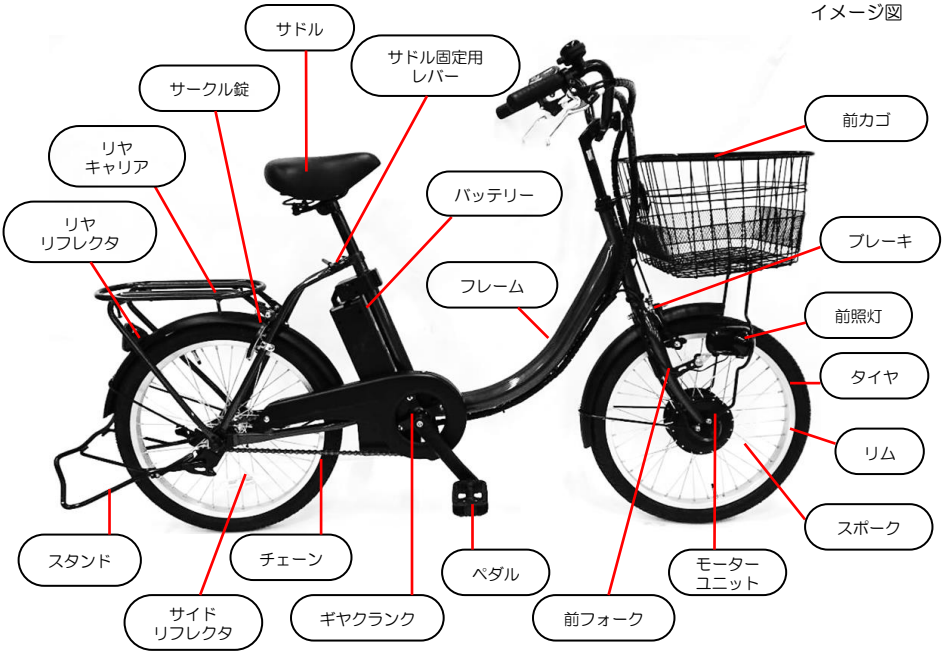
ハンドル部



イメージ図

注意:スピードメーターの取付はできません。

イメージ図



お乗りになるまえに

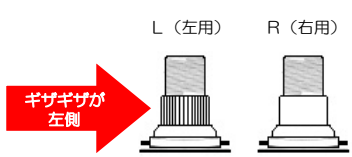
ペダルの取付

■ペダル取付け手順

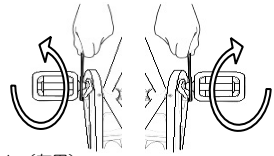
※ペダルには、右用（R）と左用（L）があります。

①ペダルの軸の端面に「R」（右用）、「L」（左用）の刻印があることを確認してください。
（左の軸にギザギザの刻みがありますので確認してください。）

②右用のペダルは右足をのせる方に、左用のペダルは左足をのせる方にネジをしめるように取り付けてください。
左右でねじ方向が逆になっていますのでご注意ください。
左右を間違えて無理に取り付けるとネジ山が破損することがありますので必ず正しく装着してください。



③ペダルの取り付けは、はじめに手で締められるところまで締めた後、スパナ/付属の専用工具等でしっかりと本締めして、がたつき等がないか確認をして下さい。



前カゴの取付

■前カゴ取付部品一覧

①底板・・・・・1個	②ネジ・・・・・4本
③ナット・・・・2個	④ワッシャー・・6個

■前カゴの取付手順

①底板の取付

付属の底板をカゴ脚の下側に添えて、カゴと底板でカゴ脚を挟み込み、ネジ2本にワッシャーを装着しカゴ内側から底板のネジ穴に入れて仮止めします。

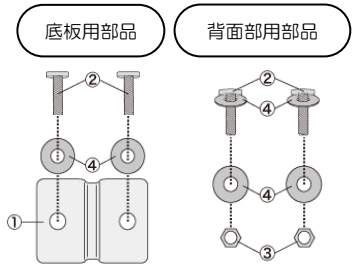
②背面部の取付

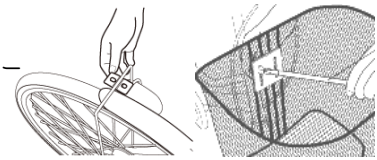
左右ハンドルから出ているワイヤー類をカゴブラケットの上部で交差させて、前カゴを取付する。ネジにワッシャーを装着しカゴ背面内側からブラケットの穴にネジを通し、反対側からワッシャー・ナットを付けて仮止めします。

③カゴの位置を調整し本締め

①・②の仮止め後、カゴ位置とカゴ脚位置を調整して本締めを行います。
外側からスパナ等でナットを固定し、内側からドライバーでネジを締めて取付完了です。

＊フレーム側カゴ脚も締付を行い緩みを確認して下さい。
＊スパナ・ドライバーは付属しておりません。



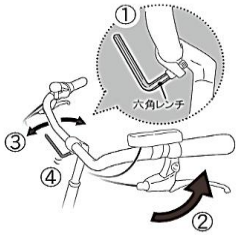


お乗りになるまえに

必ず乗車前に調整・点検をしましょう

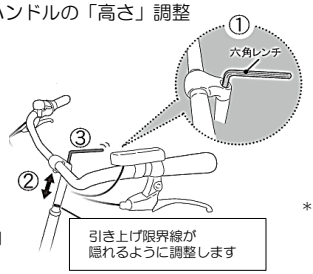
ハンドルの調整

・ハンドルの「角度」調整



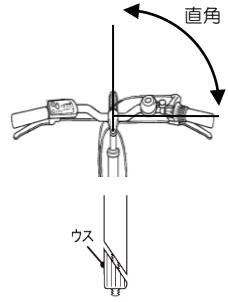
①六角レンチでステム下のボルトを緩める
②ハンドルを起こす
③ハンドルの角度を合わせる
④ステム下のボルトを固く締める

・ハンドルの「高さ」調整



イメージ図

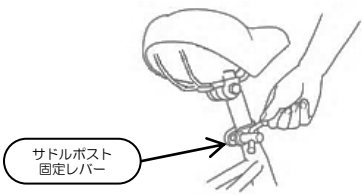
①六角レンチでステムのボルトを緩める
②高さを合わせる
※引き上げ限界線が隠れる位置に合わせる
③ハンドルが前タイヤに対し、９０°（直角）
になりようにしステムのボルトを固く締める

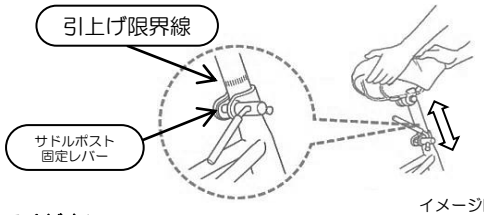


＊ステムのボルトを緩めすぎると、
ウスが引き上げ棒から外れて
しまうので緩めすぎないこと。
(ウス：ハンドルを内部で固定する部品)

サドルの高さ調整

サドルの高さは、両足先が地面につくように調整してください。
①サドルポスト固定レバーを充分にゆるめずに高さの調整を行うと、
シートポストを傷つけることがあります。
②サドルを上下に動かして高さの調整を行い、サドルを持ってサドルポスト
固定レバーを締付ます。
③サドルを上下に左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。
④締めつけ後サドルの固定レバーは図の範囲内の位置になるよう収納して下さい。



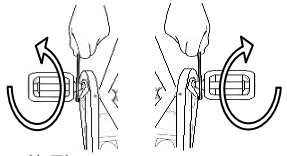


イメージ図

【警告】**引き上げ限界線以上に引き上げないでください。**
引き上げ限界線がフレームパイプにかくれる位置で調整してください。

ペダルの締め付け

ペダルはスパナ/専用工具等で
しっかり締めて、ゆるみ等ないか確認して下さい。



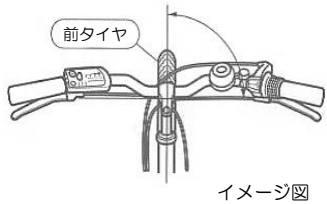
L（左用）
ペダル取付

R（右用）
ペダル取付

正しい服装で乗りましょう

動きやすく運転しやすい服装で、自転車に乗ってください。
*裾の広いズボンなどはズボンハンドで止めて、巻き込みや汚れを防止してください。

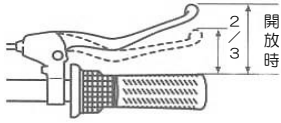
① ハンドルのがたつき・・・イラスト
ハンドルを上下左右に動かし、がたつきがないか点検しましょう。
ハンドルが前輪に対して９０度（直角）になっているか点検。



イメージ図

② 前後ブレーキレバーの握りしろ・・・イラスト
ブレーキレバーが開放時の約2/3の位置で、ブレーキが効き
はじめることを点検。

③ LEDライトの点灯
汚れ・破損がないか点検します、汚れは拭取り損傷している場合は
交換してください。
また、LEDライトが点灯するか確認。

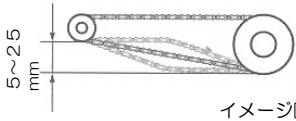


イメージ図

④ 前後車軸の固定状態
タイヤをゆすり、がたつきがないか点検。

⑤ ペダルのがたつき
ペダルをゆすり、がたつきがないか点検。

⑥ チェーンの張り具合・・・イラスト
チェーンの中央部を持って上下に動かし、その差が5～25mm
あれば適正です。



イメージ図

⑦ バッテリーの取付・残量の状態
確実に取り付けられているか点検。
バッテリー残量があるか確認。

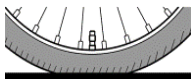
⑧ サドルのがたつき
サドルを上下左右に動かし、がたつきがないか点検。

⑨ ベルの鳴り具合・・・イラスト
ベルのノブを指ではじいてベルが鳴るか点検。

イメージ図

⑩ 前後タイヤの損傷・摩耗
摩耗やタイヤに釘などがささっていないか点検。

⑪、⑫ ホイールリフレクタ、リヤリフレクタの汚れ・損傷
汚れ、損傷がないか点検。
汚れはふき取り、損傷している場合は交換してください。


イメージ図

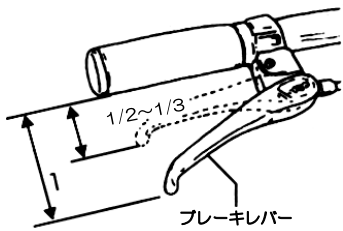
⑬各部ネジの締付確認
緩みがある場合には、ドライバーやスパナ等で締付を行う。

点検で異常があった場合、部品の変形などの異常があった場合、
異音や違和感を感じた場合は、乗車しないでお近くの自転車販売店又は、
サポートセンターまでご相談下さい。

ブレーキの調整について

ブレーキの調整

・ブレーキは安全に乗るために一番大切なものです。
いつも最高の性能が発揮できるように乗車前には
必ず点検してください。
・ブレーキレバーを操作し、レバーの開きが1/2～1/3
くらいでブレーキが効くようにしてください。



⚠ **ブレーキワイヤーは１年ごとに交換してください。サビやほつれの異常を感じた時はすみやかに交換してください。**

ブレーキレバーの遊びと調整

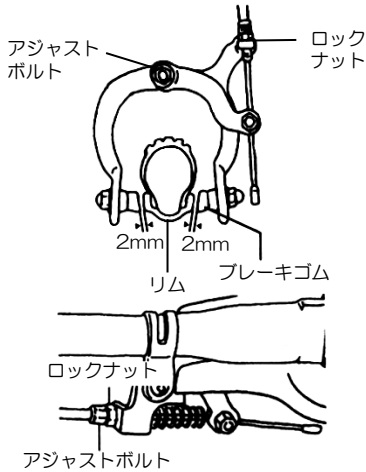
・ブレーキを長期間使用するとブレーキワイヤーの伸びなどによりブレーキの効きが悪くなります。その場合、ロックナットを一時的にゆるめて、ブレーキゴムを両側からリムに押しつけるようにしてアジャストボルトをゆるめてブレーキレバーの遊びを調整し、ロックナットを締めなおします。リムとブレーキゴムの隙間が左右平均して2mmくらいが適当です。

ワイヤ式前ブレーキ

・ロックナットをゆるめ、指でブレーキゴムを両側からリムに押しつけるようにしアジャストボルトを左に回して調整します。

ワイヤ式後ブレーキ

・ロックナットをゆるめ、アジャストボルトを左に回して調整します。(車輪の回転が重くなりますので、アジャストボルトを回し過ぎないように)。調整後はゆるめたロックナットをよく締めつけてください。



⚠ **ブレーキ各部は説明書記載以外の調整を自分で行なわないでください。**

・次の場合は販売店にご相談ください。
①アジャストボルトで調整し切れない場合。
②片効きしている場合。片効きしていると、リムとの適切な隙間が得られないばかりか、ブレーキゴムが常にリムに当たりブレーキゴムの摩耗が激しくなります。
③ブレーキゴムはリム側面にきちんと合っていますか。ブレーキをかけたとき、ゴムがタイヤに当たっているとタイヤ切れの原因となります。また、リム側面からブレーキゴムがはずれているとブレーキゴムの片べりを起こします。
④ブレーキゴムが摩耗して溝の残りが1mmになった時はブレーキゴムを交換してください。
⑤ブレーキの効きが悪くなった場合。

お乗りになる前に　交通ルールを守りましょう

2015年6月より改正道路交通法が施行されました、交通ルールを守りましょう

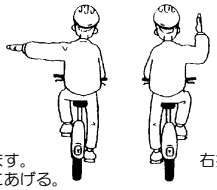
・自転車は道路交通法上、軽車両として扱われます。道路標識や信号などを守ることはもちろんですが、お互いに迷惑のかからないよう交通ルールを必ず守り、安全に正しく乗りましょう。また、2人乗りは危険ですので絶対にやめてください。

●走行中は

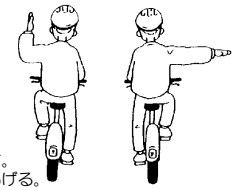
道路のいちばん左を走るようにしましょう。後方・右側・前方の安全を常に確認してください。

●曲がるときは

曲がる方向に30mくらい手前から、手で合図しましょう。



左折　左手を左に伸ばします。
また、右手を垂直にあげる。



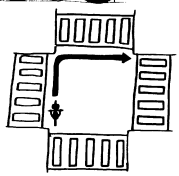
右折　右手を右に伸ばします。
また、左手を垂直にあげる。

●一時停止しましょう

一時停止の標識があるときは停止しましょう。また、狭い道路から大通りに出るとき横断歩道や踏み切りを渡るとき、歩行者の妨げになるようなときなどは必ず一時停止して安全を確かめてから走行しましょう。

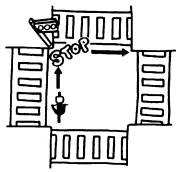
●信号のない交差点では

左折するときは、後方を注意しながら早めに合図し、できるだけ左によって十分スピードを落として曲がりましょう。
右折するときは、できるだけ左によって交差点の向こう側までまっすぐ進み、十分スピードを落としてから曲がりましょう。



●信号のある交差点では

正面の信号が青のとき、直進と左折ができます。右折の場合は、交差点の向こうまでまっすぐ進み、一度止まって曲がる方向の信号が青にかわってから進みましょう。



●横断するには

道路を横断したり、交差点を渡る場合、近くに自転車横断帯があるときは、そこを通らなければなりません。

●歩行者優先

横断歩道では、一度止まってから歩行者を優先させてください。また、自転車が通行可能な歩道を走行するときは徐行し、歩行者の妨げにならないよう気を配りましょう。

標識を守りましょう

自転車通行止め

通行止め

一時停止

横断歩道

自転車専用

自転車横断帯

自転車歩道通行可

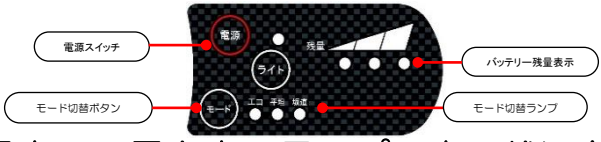
乗りかた
～発進のしかた～

①スタンドを上げてサドルにまたがります
スタンドはロックレバーを、後方に押し上げてから上げてください。

⚠警　告

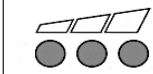
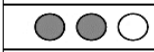
けんけん乗りはしないでください。
転倒や接触事故によるケガのおそれがあります。
必ずサドルにまたがってから発信してください。
※けんけん乗りとは・・・片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗りかた。

②ペダルを踏まずに電源スイッチを押し、電源を「オン」にします。残量表示ランプが点灯します



イメージ図

③残量表示・電力表示ランプの表示状況を確認
残量表示ランプは下表のようにバッテリー残量の目安を３段階で表示します。

バッテリー残量	残量表示ランプの表示状況	目安
	残量　LEDランプ3つとも点灯	電動アシスト 走行できます。
	残量　LEDランプが2つ点灯	
	残量　LEDランプが1つ点灯	そろそろ充電しましょう。 バッテリー残量が残りわずかな状態です。
	残量　LEDランプが点滅	充電してください。 電動アシスト走行できない状態です。 電動アシスト走行はできませんが、普通の自転車として走行できます。

【注意】
- ペダルを踏みながらオンスイッチを押して電源を入れると急発進の危険があります。必ずペダルに足を乗せないで、ブレーキレバーをにぎり電源を入れてください。
- バッテリーの残量が少ない状態（残量表示1ヶ点灯状態や点滅）のときはのぼり坂で乗車しないでください。アシストが切れたときにバランスを崩して転倒によるけがの恐れがあります。
- 夜間走行前には必ずバッテリー残量を確認してください。走行中電池残量がなくなった場合ライトも消灯します。
- 電源を入れて5分以上放置するとエコモードが働き、自動的にOFFになります。
- 残量表示ランプが消灯していく間隔は、バッテリーの状態・走りかた・道路状況などにより異なります。走行中残量表示ランプが減り、停止中に点灯表示が戻ることがありますが、故障ではありません。
- お客様が実際に走行される条件と残量表示ランプの表示状況を確認し、アシスト走行できる距離の目安としてください。

④安全を確認してから発進します

ハンドル、ブレーキレバーをしっかり握り、前後左右の安全を良く確認してからペダルを踏んで発進する。ペダルを踏み込むとペダルアシストが働き作動音がします。
※走行中はペダルアシストの作動音がしますが、異常ではありません。

【お願い】

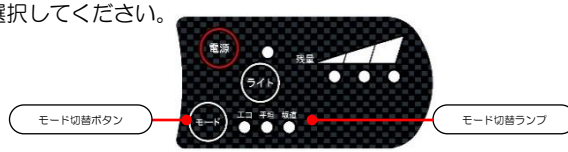
- 電動アシスト自転車はペダルを踏み込むと力強く発進しようとしますのでご注意ください。停車中はブレーキをかけ、ペダルには足を乗せないでください。坂道などの手前ではブレーキの効き具合を確認してください。
- 電動アシスト自転車は普通の自転車に比べ若干重たい為、バランスを崩して転倒によるけがのおそれがあります。人がいない安全な場所で良く練習してから走行してください。
- ペダルアシストを使用し走行すると、モーターからギア音が発生する場合があります。
- お客様が実際に走行される条件とバッテリーの残量表示ランプの表示状況を確認し、ペダルアシスト走行できる距離を把握してください。

⑤アシストモードについて

※電源を入れた時は「平坦」に設定されています。

- モード切替ボタンを押します。
  押すたびにアシストモードが切り替わり、ランプで表示します。

（注）アシストモード位置は一般的な使用例ですので、道路状況や体調などに応じて設定位置を選択してください。

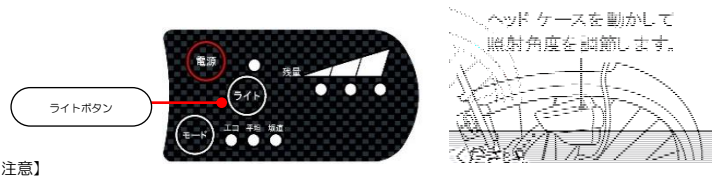


イメージ図

エコ モード	「アシストカ」を抑え、効率良く走りたい場合におすすめ ・ペダルを踏む力が少なくてもよい場合など、アシストカを抑え節電走行します。
平坦 モード	平地中心に一定のアシストカで走りたい場合におすすめ ・広範囲にお使い頂ける標準的なアシストモードです。
坂道 モード	坂道など力強いアシストカで走りたい場合におすすめ ・上り坂など力強いアシストカは必要なときは、より楽に走行できますが電力の消費量は多くなり走行距離は短くなります。坂道のときにご使用ください。

⑥前照灯について

- 「ライト」ボタンを押すとライトが点灯・消灯状態に切り替わります。
  ※電源ボタン「入」のとき
- 自転車の前方約１０mの路面を照らすように照射角度の調整をしてください。



イメージ図

【注意】

- 夜間走行前には必ずバッテリー残量を確認してください。走行中アシストが切れた場合ライトも消灯します。

停止、駐輪、施錠について

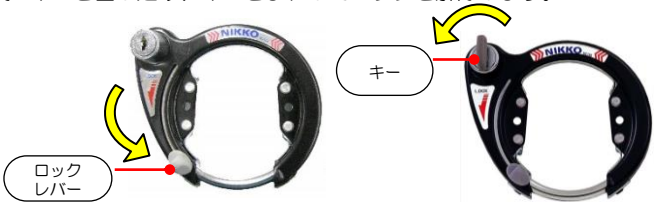
1 .自転車を停止させ、電源を切ってから自転車を降ります

電源スイッチを押し、残量表示ランプが消えたことを確認します。
※前ブレーキだけのブレーキ操作はしないでください。転倒につながり大変危険です。

イメージ図

2. 鍵をかけます

①ロックレバーを左側に押し反時計方向に「カチッ」と音するまで回してロックします。
②キーを抜きます。
ロックの解除 キーを差し込み、キーをまわしてロックを解除します。



【注意】

- 本製品は、バッテリーキーと共通となっています。
- 盗難防止のため、必ず錠をかけてキーを抜いてください。
- 雨ざらしになるところには駐輪しないでください。
- 家などの重要なガギと一緒につけて鍵に装着しないでください。

イメージ図

充電のしかた

1 充電場所（下記条件をみたすところ）を決めます

- ●風通しがよく湿気の少ないところ。
- ●直射日光や雨つゆの当たらないところ。
- ●水がかからないところ。
- ●平坦で安定のよいところ。
- ●周囲温度が0℃～40℃のところ。
- ●幼児やペットなどがいたずらをしないところ。
- ●高温になる場所では行わないで下さい。またバッテリー、充電器の保管もしないで下さい。

2 バッテリーを取り外します

① バッテリーハンドルを持ち、鍵を鍵穴に差し込み①鍵を反時計回りにまわす。
②バッテリーハンドルを手前に倒す。
③そのまま上に引き抜くように取外します。
④鍵を忘れずに、抜いて保管してください。

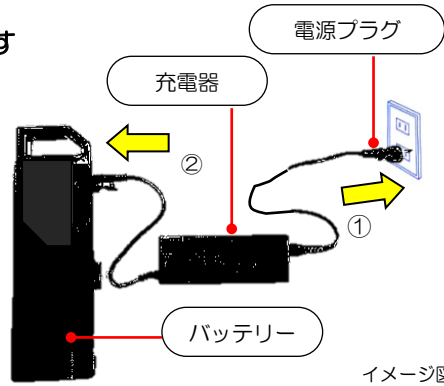
イメージ図

【注意】
自転車本体から、必ずバッテリーを外して充電を行ってください。
バッテリーを取り外すときはバッテリーハンドルを持ちながらキーを回して下さい。
バッテリー本体を持たずにキーを回すとバッテリー本体が落下し破損、けがをすることがあります。

3．バッテリーを充電器に接続します

①電源プラグをコンセントに差し込みます。
　＊充電器本体のランプが緑色に点灯
②充電プラグをバッテリーの充電端子に
　しっかりと奥まで差し込んでください。
　＊充電器本体のランプが赤色に点灯

●充電器のプラグをコンセントに差し込む
　前にバッテリーと接続すると、多少火花が
　出る場合があります。
　上記①、②の手順で作業してください。



イメージ図

【ご注意】
●傾いた所で充電しないでください。
　バッテリーが転倒し、ケガの恐れがあります。
●充電プラグをバッテリーの充電端子に
　しっかり奥まで差し込んでください。
　差し込みがゆるいとバッテリーが転倒し、ケガの恐れがあります。
　また、充電器の赤ランプが点灯せず充電できない場合もあります。
●テレビやラジオの近くで充電しないでください。
　テレビやラジオに雑音が入る場合があります。
　その場合は電気製品から離れたところで充電してください。

※バッテリーは工場出荷時、十分に充電されていませんので、ご使用になるときは
　充電してご使用ください。

4．充電時間の目安（通常充電）

充電時間

充電前のバッテリー状態や外気温などにより異なりますが、 残量表示ランプが１つに
なってから充電した場合、約４時間です。

【ご注意】
●ご購入後初回の充電では充電時間が多少長くなることがあります。
●充電中は、充電器およびバッテリーが多少熱くなりますが、異常ではありません。

充電完了

充電器のランプが赤色から緑色に変われば、充電が完了となります。
速やかに、充電プラグをバッテリーから外して電源プラグをコンセントから抜いてください。

充電器のランプ表示

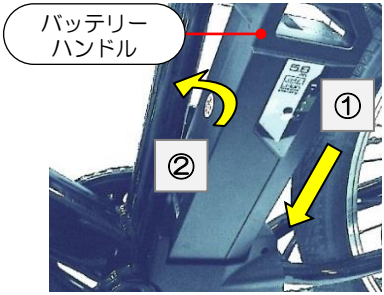
赤ランプ	充電中
緑ランプ	充電完了

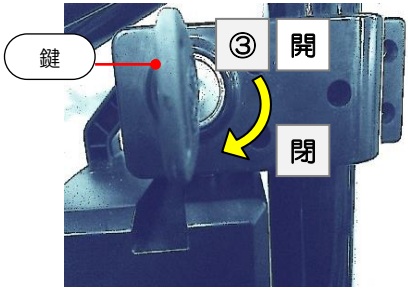
【ご注意】
●バッテリーを充電器に接続したまま持ち上げると、ケガをする恐れがあります。
●充電器の電源プラグ及び充電プラグは、コードを持って取りは外さないでください。
　断線など充電器の故障の原因となります。

5．バッテリーの取り付け

※バッテリー取り付け部に異物がないか、濡れてないかを確認します。
①バッテリーハンドルを持ち、車体側の溝にバッテリー本体を合わせ斜めに差しこむ。
②バッテリーを矢印の方向に押す。
③バッテリーを押しながら、鍵を矢印方向にまわしロックします。
※しっかり固定されていることを確認してください。

イメージ図





※バッテリー横のボタンを押すと、インジケーターランプによるバッテリー残量が確認できます。

バッテリーについて

バッテリー交換の目安　バッテリーには寿命があります。

●バッテリー交換は有料です。
バッテリーの交換時期は、使用状況、充電のしかたなどにより異なりますが、新品時より著しく短く（約半分以下）なったときが交換時期です。

●バッテリー交換時期の目安。
バッテリー交換時期の目安として、約300～500回の充電の 繰り返しで交換時期に至る場合が多いですが、充電回数が300回未満の場合でもご使用 や保管の条件等により、1～2年程度の使用期間で一充電あたりの走行距離が著しく短く（新品時の約半分以下）なる場合があります。
※冬季はバッテリーの特性上、走行できる距離が短くなりアシスト力は低下することがあります。バッテリーを温度15～25℃の室内で保管してからご使用いただくと症状を軽減することができます。また、ペダルを強く踏み込む状態で走行する機会が多かったり、高温になる場所でバッテリーを保管すると通常より少ない充電回数や短い期間でバッテリーが消耗し、寿命となる場合があります。
※バッテリーは消耗品です。「バッテリー交換時期の目安」と保証期間は関係ありません。

リチウムイオン電池のリサイクルについて

この商品にはリチウムイオン電池を使用しています。
リチウムイオン電池はリサイクル可能な、貴重な資源です。
不要になったバッテリーは完全に放電（アシスト走行ができなくなるまで）させてから、充電式電池リサイクル協力店にお持ちいただくか、保証書記載のサポートセンターまでご相談ください。
使用済みの小型充電式電池のリサイクルにご協力願います。

Li-ion

お手入れと保管

お手入れについて

●本体の汚れは、水を含ませ固くしぼったやわらかい布などで、きれいにふき取ってください。
●汚れのひどいときは、中性洗剤を浸した布でふき取り、乾いた布で洗剤が残らないようによくふき取ってください。

水洗いはしないでください。雨天走行で水にぬれたときは乾いた布でふき取ってください。
浸水によって電気部品（モーター部、バッテリー部など）および配線の絶縁が劣化し、漏電など故障の原因になります。

注意：
シンナーやベンジン、みがき粉、アルカリ性洗剤、その他の溶剤は絶対に使用しないでください。変色、傷、変形、ヒビ割れの原因になります。

●スポーク・ペダルシャフトなどのスチール部品は、布に防錆剤を吹き付けてふいてください。
●フレームなどの金属塗装部は、汚れをふき取った後、布に少量のワックスをつけてみがきます。

保管について

1．保管場所（下記条件を満たすところ）を決めます。
　●風通しがよく湿気の少ないところ
　●平たんで安定のよいところ
　●直射日光や雨つゆの当たらないところ
　※雨ざらしになるところは避けて保管してください。
2．電源スイッチが「切」になっていることを確認します。
3．タイヤ空気が減っているときは、空気を入れます。
4．鍵をかけます。
　※盗難防止のために必ず、鍵をかけてキーを抜いて下さい。
　※キーは紛失しないようにしっかり保管して下さい。

●長期間（1ヶ月以上）保管されるときはバッテリーをはずし、30%程度充電して室内の涼しい所で保管してください。また、使用しなくてもわずかづつ放電します6ヶ月毎に1度10%程度補充電し、再使用時は満充電をしてからご使用ください。
●自転車を廃棄するときは、各自治体の指示内容に従って処理してください。

ご注意！

バッテリーとサークル錠のカギは共通となっています。
３本付属していますのでカギを紛失しないよう
大切に保管してください。

故障かな？と思ったら（自転車）

【警　告】

●次の点検をしていただき、それでもなお異常があるときは事故防止のためご使用を中止し、サポートセンターにご相談ください。
●改造しないでください。分解や修理をしないでください。

こんなとき	調べるところ	直しかた
ペダルが重い。	電源スイッチがオンになっていますか。	電源スイッチをオンにしてください。
	タイヤの空気圧が減っていませんか。	タイヤに空気を入れ下さい。（標準空気圧）
	タイヤがパンクしていませんか。	パンクはお買い上げ販売店または自転車店に修理依頼をしてください。
電源スイッチを押しても残量表示ランプが点灯しない。	バッテリーが充電されてますか。	バッテリーを充電してください。
	バッテリーは確実に固定されてますか。	バッテリーの取付状態を確認してください。
走行できる距離が短い。	上り坂の連続走行や発進停止の繰り返しなど、高負荷運転をされていませんか。	走行条件によって、走行できる距離は短くなります。
	タイヤの空気圧が減っていませんか。	タイヤに空気を入れ下さい。（標準空気圧）
	タイヤがパンクしていませんか。	パンクはお買い上げ販売店または自転車店に修理依頼をしてください。
	長期間使用しないで保管されていませんでしたか。	バッテリーは自己放電します、長期間保管するとバッテリー残量が減ります。
	前照灯が点灯されてますか。	前照灯を点灯した場合、走行できる距離が短くなります。異常ではありません。
バッテリーの取付ができない。	バッテリー取付部分などにゴミなどの異物はありませんか。	異物などを取り除いてから、バッテリーを取り付けてください。

故障かな？と思ったら（充電器、バッテリー）

こんなとき		調べるところ	直しかた
充電できない	充電器の赤または緑ランプが点灯しない。	電源プラグはしっかりと差し込まれていますか。バッテリーと充電器は確実に接続されていますか。	電源プラグをしっかりと差し込み、充電器にバッテリーを確実に接続してください。
	充電器の赤または緑ランプがゆっくりと点滅している。	充電直後ではありませんか。	充電後すぐに充電しようとしても、充電しないことがあります。満充電からの追加充電はしないでください。温度が下がってくると充電を開始します。
		周囲温度の高いところ（40℃以上）あるいは低いところ（0℃以下）で充電されていませんか。	バッテリーの内部温度が高いと、充電しないことがあります。 涼しい所で充電してください。 温度が下がってくると充電を開始します。 温度が低い場合は室内などの暖かい所で充電をしてください。
		走行直後ではありませんか。	走行直後でバッテリー内部温度が高いと、充電しないことがあります。 温度が下がってくると充電を開始します。
充電中、異常を感じたら（異音・異臭・煙がでるなど）			電源プラグを抜いてお買い上げ販売店にご相談ください。
充電器やバッテリーが熱くなる		手で触れられないくらい熱いですか	充電中は多少熱く（40℃～60℃）になりますが故障ではありません。 手で触れないほど熱いときは異常です。 電源プラグを抜いてお買い上げの販売店にご相談ください。

安全のための点検・調整

乗る前の点検

［乗る前の点検」とは、ご使用前に、毎日お客様ご自身でおこなっていただく最少限度の点検・調整のことです。「おのりになるまえに」に書かれた点検方法に従い、ご使用前に必ず実施してください。

定期点検・調整

［定期点検・調整」とは、末永く安全にご愛用いただくため、お客様に変わってお買い求めいただいた販売店などでおこなう点検・調整のことです。販売店（自転車組立整備士・自転車安全整備士）へご依頼ください。
※料金は有料となります,あらかじめ販売店などにご相談ください。

防犯登録について

●自転車購入時は法律で防犯登録を行う事が義務付けられています。
　購入後、お近くの自転車用防犯登録所の看板のある自転車販売店にご相談ください。
また自治体により、保険加入が義務づけらている場合があるで、自治体の指示に従ってください。

BM-TZ500

イメージ図

●盗難にあった場合には捜す手掛かりになりますので、車体番号を本書に記入してください。

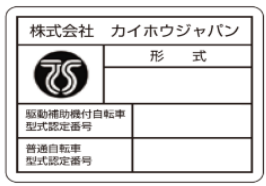
●バッテリーキー注文時に必要となりますので、バッテリーキー番号も本書に記入してください。

幼児用座席の取付について

●本製品の設計上、幼児用座席を取り付けはできません。
・自転車の前部には、前部幼児用座席の取り付けはできません。
・リヤキャリアには、幼児用座席の取り付けはできません。
・リヤキャリアに、市販のリヤバスケットを取りつける場合はあらかじめ装着ができるか確認してください。
・リヤバスケットに荷物をのせる場合は、バスケットと荷物の合計が最大15kgまでのせることができます。15kg以上のものはのせないでください。
※前カゴには、最大5kg以上のものはのせないでください

TSマークについて

●TSマークは、道路交通法令の基準に適合し、国家公安委員会の型式認定を取得した自転車に貼付されます。
　自転車に貼られたTSマークは，はがさないでください。
※工場出荷時に貼付しているTSマークには、保険は付帯されていません。自治体により、保険加入が義務づけられている場合があるで、自治体の指示に従ってください。



点検・整備チェックリスト(点検時以外でも異常を感じた場合、点検整備をお受けください)

自転車は時がたつにつれて自然に劣化が出ます。
重要部品は、一定期間経過するたびに調整する必要がありますので、
定期点検をお受けください。(有料)

点検項目	2ヶ月以内		1年ごと		1年ごと		1年ごと		1年ごと		1年ごと	
大きさは乗り手の体格にあっているか	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整
サドルにまたがって、足が地面に届くか。またサドルの固定は確実か												
ハンドルの高さは適正か、また固定は確実か												
フレーム、前ホークに変形や亀裂はないか												
ヘッド、ハンガー小物にガタ・摩耗はないか												
どろよけはしっかり固定されているか												
リヤキャリアは片寄っていないか、しっかり取付されているか												
スタンドの取付と作動はよいか												
タイヤの空気は適正か、すりへっていないか												
ペダルはクランクと垂直になっているか												
クランクに曲がりないか、ガタつきはないか												
ペダルはなめらかに回転するか												
車輪の振れ、スポークのゆるみ、軸部のガタはないか												
ブレーキゴムなどすりへっていないか												
レバー間隔は正常で、前後のブレーキはよく効くか												
チェーンのたるみ、張りは適正か												
前照灯は点灯するか												
リフレクターは破損していないか												
ベルは良くなるか												
ギアチェンジは正確に作動するか												
定期点検・整備を実施した販売店ならびに年月日	年 月 日	㊞										

※書き方　点検・・・良好○　不備×

仕　様

品番		BM-TZ500
寸法	全長	1,600m
	前幅	570mm
	サドルの高さ	760mm-900mm
タイヤサイズ		20インチ
質量		23.0kg
充電１回の走行距離（当社指定パターン）		最大約３０km（エコモード時）
変速機形式		-
前照灯		バッテリー式ＬＥＤ前照灯
フレーム		U形
スタンド		両脚スタンド
ハンドル		セミアップハンドル
錠前		シリンダー式リング鍵
補助速度範囲	比例補助	0km/h以上～10km/h未満
	逓減補助	10km/h以上～24km/h未満
駆動(動力)		前輪駆動モーター
モーター	形式	ブラシレスモーター
	定格出力	250W
制動装置	前輪/後輪	前：キャリパーブレーキ　後：ローラーブレーキ
バッテリー	品番	KH-BA06
	種類	リチウムイオンバッテリー
	容量	5.8Ah
	電圧	24V
充電器	品番	FY-0632942000
	電源	AC100V-240V
	充電時間	約4時間
乗車適応身長（目安）		150ｃm以上

●乗車適応身長は、サドルを一番下に下げ車体正位状態で、両足のつま先が地面につく目安となる身長です。
　個人差がありますので目安としてください。
●この車種は、乗車体重を65kgで基本設定しています。65kg以上の人が乗車するとすぐに壊れてしまうというものではありませんが、著しくオーバーした体重の方が常用される場合には、車体や各部品などの消耗度合い、劣化度合いが大きく早くなることをご理解ください。
●寸法や質量等の値は、部品のばらつきや仕様変更により誤差が生じる場合があります。
●仕様変更などにより、写真・イラストや内容が一部実車と異なる場合があります。

品質保証規定

〈無料修理規定〉

1. 保証期間はお買い上げ日より1年間。但し消耗部品等は除く。

2. 取扱説明書の注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。

（イ） 無料修理をご依頼になる場合には、商品に保証書を添えて頂き、お買い上げ販売店にお申しつけください。

3. ご転居の場合の修理ご依頼等はお買い上げ販売店にご相談ください。

4. ご贈答品等で本保証書に記入の販売店で無料修理をお受けになれない場合には、保証書に記載の相談窓口にご相談ください。

5. 保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせて頂きます。

（イ）使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷

（ロ）取扱い説明書に従わない使用方法（乗車定員、禁止事項の無視等）による故障及び損傷

（ハ）衝突・転倒・転落等の扱いの誤りによる故障及び損傷

（ニ）自転車が一般に走行しない場所を走行された場合の故障及び損傷

（ホ）業務用（荷物運搬、新聞配達等）・営業用（レンタルサイクル等）・不特定多数で使用された場合の故障及び損傷

（ヘ）火災・地震・水害・落雷・その他天災地変及び公害・塩害・ガス害など、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷

（ト）消耗部品等（下記記載）及び消耗部品の消耗によって生じた二次的故障及び損傷

消耗部品等	タイヤ・チューブ・リム・スポーク・ブレーキゴム類（ブレーキブロック、パッド、ライニング等を含む） 油脂類・バッテリー・乾電池・電球・ヒューズ・ダイナモゴムローラー・ワイヤ類・サドル・ペダル ベル・リフレクター類・スタンド・グリップ

（チ）レース等の酷使による故障及び損傷

（リ）クギ・ビン・ガラス・切削くず・鋭利な石ころ等により生じたパンク

（ヌ）保証書のご提示かない場合

（ル）保証書はお買い上げ年月日・お客様名・販売店名の記入捺印がない場合、あるいは文字を書き換えられた場合
＊但し購入時、購入年月日・製品名（品番）・販売店名の記入がない場合は、納品書などの製品名（品番）購入年月日・販売店名が記載されたものをご用意ください。

6. 保証書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.

7. 保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

8. ご相談窓口は下記をご参照ください。

※お客様にご記入いただいた個人情報（保証書）は、保証期間内の無料修理対応及びその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がありますのでご了承ください。

※本規定の変更
当社は、お客様への事前の通知およびその承諾なしに本規定の内容を変更できるものとします。この場合、本保証書の提供条件は変更後の規定によるものとします。なお、変更後の規定については、当社ホームページにより通知するものとします。

KAIHOU

株式会社　カイホウジャパン
〒192-0903
東京都八王子市万町１０－１
TEL：042-686-3645（サポートセンター）
受付時間：月～金曜日　（祝祭日を除く）10～17時

～メモ～